

原子力発第08116号
平成20年7月25日

愛媛県県民環境部長
長野 侯二 殿

四国電力株式会社
上席支配人 原子力本部 原子力部長
谷川 進

伊方発電所
「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」の
改訂に伴う耐震安全性評価結果 中間報告書の一部訂正について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、当社事業
につきまして格別のご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

標記について、一部訂正がありましたので、資料を提出いたします。
なお、中間報告書の評価内容には変更はありません。

敬 具

伊方発電所「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」の改訂に伴う
耐震安全性評価結果 中間報告書の一部訂正について

1. 訂正理由

標記中間報告書に記載した図に一部誤記，記載漏れがありましたので，一部訂正するものであります。

なお，これらの基となる中間報告書添付データ自身には何ら変更はなく，中間報告書の評価内容には変更はありません。

2. 訂正内容

(1) - 80ページの「第2.2-5図 瀬戸内海沿岸の段丘面高度図」における誤記訂正(1箇所)

・訂正前：H2 段丘

・訂正後：H1 段丘

(2) - 71ページの「第2.4-1表 敷地周辺の中央構造線活断層帯一覧」における追記(2箇所)

・追記内容：分布形態の欄に「分岐」を追記

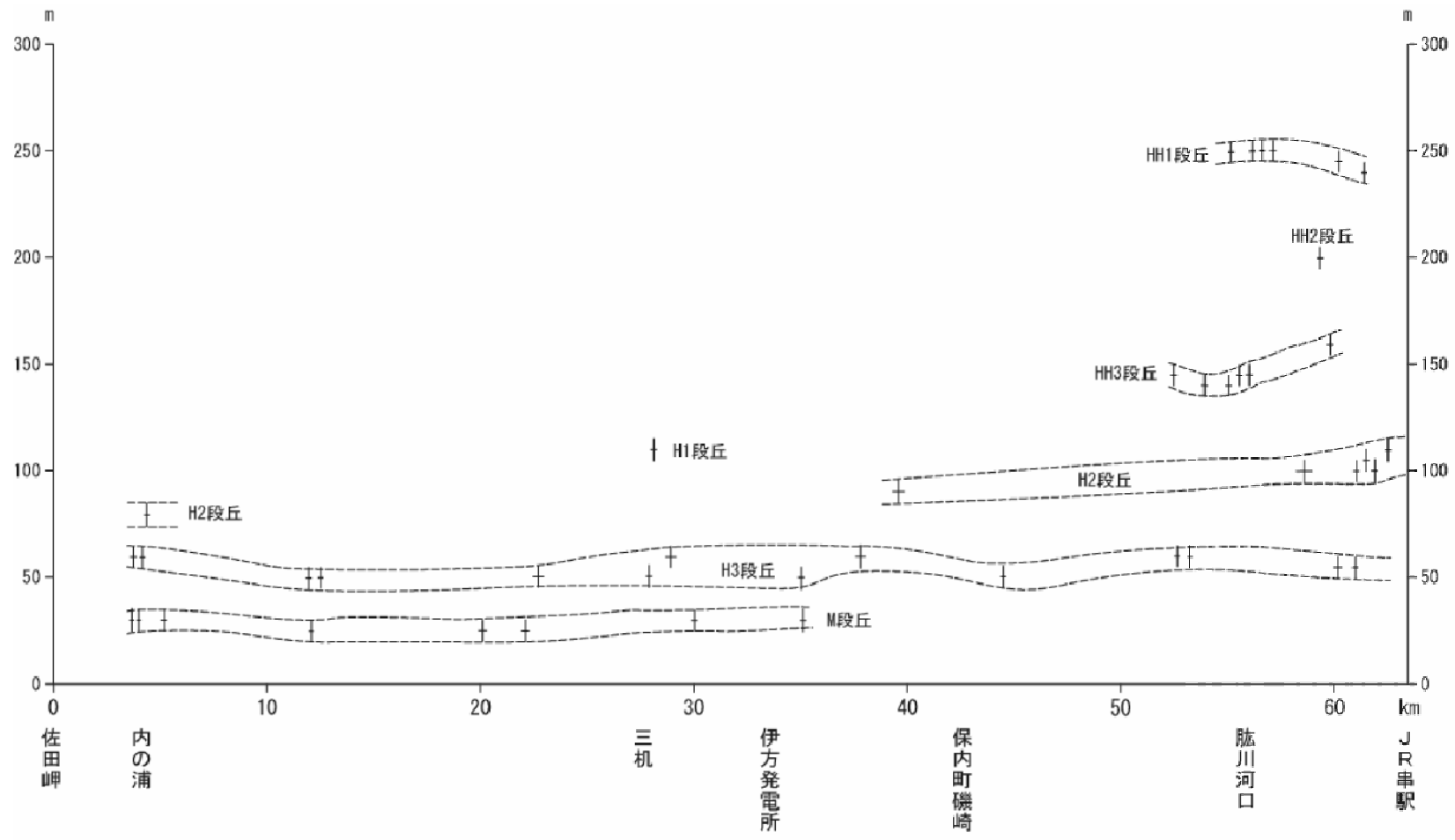
第四紀堆積盆の欄に「有」を追記

以 上

第2.4-1表 敷地周辺の中央構造線断層帯一覧

断層名		豊予海峡 セグメント	三崎沖 引張性 ジョグ	伊予灘 セグメント			串沖 引張性 ジョグ	伊予断層		重信 断層	川上-小松 断層						
性状		海							陸								
走向		北東-南西							東北東-西南西								
活動様式		正断層 一部横ずれ断層含		右横ずれ断層													
縦ずれ変位の向き (落ち方向)		全般に北落ち優勢		南落ちと北落ちの断層に挟まれた地溝・バルジの形成 (断層帯全体として南北で顕著な縦ずれ変位は見られない)						南	北	ギヤップ	南	ギヤップ	南	北	南
分布形態		並走配列 別府湾活断層系 と斜交		右屈曲 (分岐)	雁行配列	右 屈 曲	雁行配列	右屈曲 (分岐)	雁行 配列	直線状	分岐	ギヤップ 直線状	右屈曲	分岐	左屈曲	直線状	直線状 岡村断層 と並走
第四紀堆積盆		無		有		無		フルアハート ベースン	無		フルアハート ベースン	-					
活動時期	最新							約6千年前 以降	14世紀以降		11世紀 以降	9世紀以降					
	1つ前							約1万年前 以降	2~3.5千年前		6.2千年前 ~11世紀	1~8世紀					
	2つ前								3.5~7千年前			4.9千年前~3世紀					
平均活動間隔 (千年)				-		伊予セグメントと同程度以下の 活動性と推定される		3.3~5.0	2.5		(3.5-4.0)*	1.0-1.4					
横ずれ変位量 (m/回)								-	2.0		2.5	4.0					
横ずれ変位速度 (mm/yr)								-	0.8-1.6		(0.6-0.7)*	2.8-4					
セグメント 区分	四国電力 (今回評価)	豊予海峡 セグメント 23km	三崎沖 引張性 ジョグ 13km	敷地前面海域の断層群 ▼伊方発電所 42km			串沖 引張性 ジョグ 13km	伊予セグメント 23km		重信 引張性 ジョグ 12km	川上セグメント 36km						
	岡田(1992) ⁽¹¹⁶⁾	-----		110km			15km		20km								
	佃(1996) ⁽¹¹⁸⁾			27km		28km		12km		24km							
	中田・後藤(1998) ⁽¹¹⁵⁾																
	七山ほか(2002) ⁽⁴⁴⁾	23km	13km	42km		13km	21km										
	吉岡ほか(2005) ⁽³⁶⁾	23km	38km		36km		25km		19km		25km						

*活動の見落としの可能性が指摘されているため、参考値扱いとする

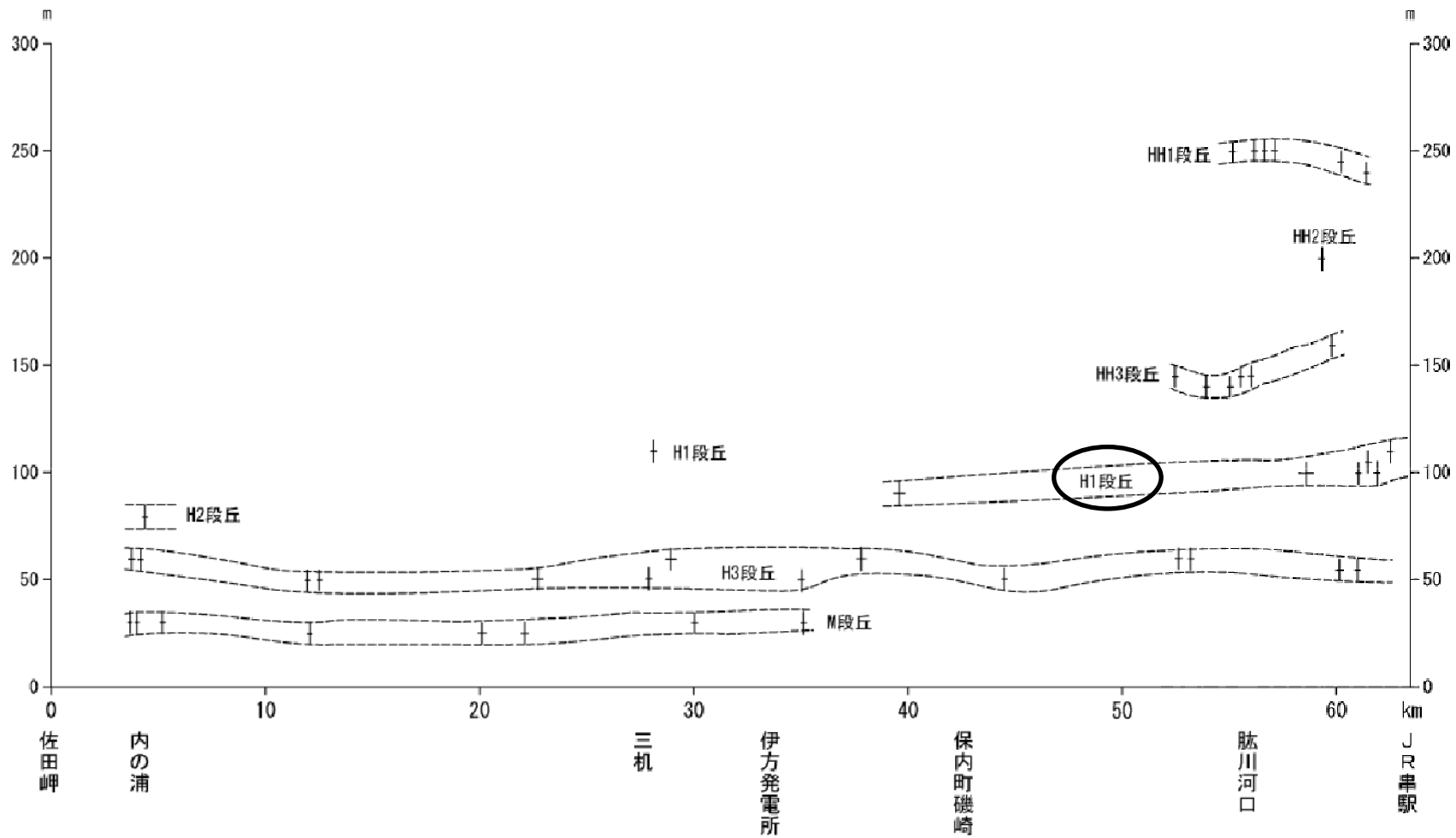


第 2-2-5 図 瀬戸内海沿岸の段丘面高度図

第2.4-1表 敷地周辺の中央構造線断層帯一覧

断層名 性状	豊予海峡 セグメント	三崎沖 引張性 ジョグ	伊予灘 セグメント				串沖 引張性 ジョグ	伊予断層		重信 断層	川上-小松 断層					
	海		陸						北東-南西		東北東-西南西					
活動様式	正断層 一部横ずれ断層含		右横ずれ断層													
縦ずれ変位の向き (落ち方向)	全般に北落ち優勢		南落ちと北落ちの断層に挟まれた地溝・バルジの形成 (断層帯全体として南北で顕著な縦ずれ変位は見られない)						南	北	ギヤツプ	南 直線状	ギヤツプ	南	北	南
分布形態	並走配列 別府湾活断層系 と斜交		右屈曲 (分岐)	分岐	雁行配列	右 屈曲	雁行配列	右屈曲 (分岐)	雁行 配列	直線状	分岐	右屈曲	分岐	左屈曲	直線状	直線状 岡村断層 と並走
第四紀堆積盆	無		有	無	有	無	フルアハート ベースン	無		フルアハート ベースン	-					
活動時期	最新							約6千年前 以降	14世紀以降		11世紀 以降	9世紀以降				
	1つ前							約1万年前 以降	2~3.5千年前		6.2千年前 ~11世紀	1~8世紀				
	2つ前								3.5~7千年前			4.9千年前~3世紀				
変位	平均活動間隔 (千年)	-		伊予セグメントと同程度以下の 活動性と推定される				3.3~5.0	2.5		(3.5-4.0)*	1.0-1.4				
	横ずれ変位量 (m/回)	-						-	2.0		2.5	4.0				
	横ずれ変位速度 (mm/yr)	-						-	0.8-1.6		(0.6-0.7)*	2.8-4				
セグメント区 分	四国電力 (今回評価)	豊予海峡 セグメント 23km	三崎沖 引張性 ジョグ 13km	敷地前面海域の断層群 42km ▼伊方発電所				串沖 引張性 ジョグ 13km	伊予セグメント 23km	重信 引張性 ジョグ 12km	川上セグメント 36km					
	岡田(1992) ⁽¹¹⁶⁾	-----		110km				15km		20km						
	佃(1996) ⁽¹¹⁸⁾			27km		28km		12km		24km						
	中田・後藤(1998) ⁽¹¹⁵⁾															
	七山ほか(2002) ⁽⁴⁴⁾	23km	13km	42km		13km		21km								
	吉岡ほか(2005) ⁽³⁶⁾	23km	38km		36km		25km		19km		25km					

※活動の見落としの可能性が指摘されているため、参考値扱いとする



第 2.2-5 図 瀬戸内海沿岸の段丘面高度図